令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 准教授
氏名： 山本　大

研究課題名	サッカー指導者養成講習会の受講生の実態調査および指導行動の分析
研究目的及び研究概要	公益財団法人日本サッカー協会（以下「JFA」とする）の指導者養成では，キッズリーダーと呼ばれる10歳以下の子どもに関わる指導者ライセンスをはじめとして，D級→C級→B級→A級と続き，最終的にプロ選手対象の指導者を養成するS級ライセンスと，選手の年齢やレベルに応じた指導者を養成する講習会を実施している．その中の１つであるC級は基礎を学ぶ指導者の入門コースとして位置づけられ，受講生には指導の未経験者や経験の浅い者が多い．しかし，C級の受講生がどのようなスポーツ経験，指導経験，さらには知識やスキルを持っているかについては明らかにされていない．加えて，受講生の指導行動にどのような特徴があるのかも不明である．本研究では，このC級指導者講習会に参加する受講生の実態を明らかにし，さらに指導行動の基準となる基礎資料の作成および講習会のカリキュラムの検証を目的とする． 【期間】 2021年4月1日～2024年3月31日(予定) 【対象】 日本サッカー協会公認C級コーチ養成講習会に参加する受講生 【方法】 受講生に対して受講前後にアンケート調査の実施，および受講生の指導行動をビデオカメラに録画と同時に調査員の観察によりデータの収集をおこなう．
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	本年度は，アンケート調査を実施し，受講生の属性および選手歴と指導歴の3つの指標から検証した． その結果，講習会の改善策として下記2点を提案した． １．コーチングの改善行動に結びつく具体的なコーチング実例の提示 ２．選手歴のない受講生のコミュニティの必要性とITのさらなる活用 しかし本調査はデータ数が少なく継続しデータの蓄積することなど必要である．また本調査で明らかになった新たな課題を検証すると共に，D級やB級など違うレベルの講習会および聴講生へのインタビューなど多角的に調査をおこなう必要がある． なお本研究は論文としてまとめた． ○サッカー指導者養成講習会受講生の意識調査に基づく現状と課題 山本大；石崎聡；新井優太；東海林毅；北村勝朗 スポーツ科学研究，2023年03月，査読有り